

全日本民医連第31次辺野古新基地建設反対支援・連帯行動（1/23~25）が行われました！

辺野古への基地建設 NO の民意が示された名護市長選挙の翌週末、今回で 31 回目となる全日本民医連の辺野古支援・連帯行動が行われ、香川民医連から平病医事課の二川課長、こどもクリニックの福永師長の 2 名が参加しました。

米軍基地見学

どの基地も騒音がすごかった。頻繁に住宅や自分の上空を飛び交うことに恐怖を感じた。

（二川課長）



普天間飛行場・嘉手納基地は危険と日本の中に普通に入り込んでいいる。米軍基地の異常に驚き、住民の方の日々の大変さを知りました。

（福永師長）

高江・辺野古行動

辺野古の海は本当にきれいで、この海を埋め立てて基地を作るとは絶対に許せないと思った。高江の現状を初めて知り、もっとたくさんの人たちに知ってもらい、世論で国を動かしたいと感じた。

（二川課長）



本島から見た沖縄、沖縄から見た高江、知らないことばかりで申し訳ない気がした。知って、伝えて、アクションを起こすことの大切さを感じました。「がんばれ」ではなく、「一緒にがんばろう」ということを大事にしていこうと思います。

（福永師長）

やはり辺野古の海の美しさには感動した。この海を守るためならもっと協力して支援していきたいと思った。

（二川課長）

一番印象に残ったこと



「基地に移転ではなく返還を！」沖縄の方々は人に押しつけることは違うと感じていること。負担を押しつけられている沖縄の方々なのに、どこかに持って行って欲しいとは思わず、他に負担をさせるのはおかしいから返還を考えていることに感心させられました。

（福永師長）

自分が実際に感じたことをしっかり伝えて、1人でも多くの人に本当の沖縄を知ってもらおう。

（二川課長）

これから取り組みたいこと



知ったことを周囲に伝え、まわりを巻き込んで、みんなの関心が同じ方向に向き、自分のことのように人を支える運動が全体でできるように広めていきたいと思っています。

（福永師長）